

たび ちょう 旅する蝶 アサギマダラ

わた きせつ す ぼしよ いどう どうぶつ し
渡り(季節によって住む場所を移動すること)をする動物を知っていますか？

ツバメやハクチョウなど鳥のイメージが強いですね。

ところが、昆虫でも長距離の渡りをするものがあります。

今回は、日本で見られるアサギマダラというチョウを紹介します。



どんなチョウ？

アサギマダラはタテハチョウ科・マダラチョウ亜科の昆虫で日本全土に生息しています。黒縁に浅黄色(水色)と褐色(赤茶色)の羽が美しく、ふわりふわりと飛びます。夏の高温を避けるため、春に北上したり、標高1000 mを超える山地に移動したり



します。そのため、このチョウは季節により見られる場所が違います。また秋には南下するため、同じ場所で1年に2度見られることもあります。北海道まで移動するものや海を越え台湾まで飛ぶものなど、最長で2000 kmという長距離の移動をするものもいます。

なに た 何を食べるの？

幼虫は、ガガイモ科の植物を食べます。成虫は、いろいろな花から蜜を吸いますが、初夏は浜辺に咲くスナビキソウ、秋はフジバカマなどによく集まります。



スナビキソウ

は で たいしよく りゆう 派手な体色の理由

幼虫は黒と白と黄色のまだら模様ととても目立つ色をしています。目立つて大丈夫でしょうか？じつは幼虫が食べるガガイモ科の植物は、毒を含ん



でいて、幼虫はその毒を体の中にため込んでいます。そして、鳥などに食べられないように、派手な体色でアピールし、身を守っているのです。また、成虫が食べる花の蜜にも毒になる成分が含まれています。身を守るほかに、オスは、この毒からメスを引き寄せる成分を体の中で作るため、特に好んでこれらの花に集まってきます。

いつ卵を生んでいるの？

メスは秋の南下の途中に産卵をし、生んだ後もさらに移動を続けます。ふ化した幼虫は、そのまま冬を越し、春に成虫になり、親と同じように北上をはじめます。

海外の旅するチョウ

アメリカには、オオカバマダラというチョウがいます。このチョウはカナダやアメリカ北部からロッキー山脈を越えアメリカ南部のカリフォルニア州やメキシコへ渡ります。世代交代をしながら最長約5000kmにもわたる旅をしています。



オオカバマダラ

世代交代を

なぜ長距離の移動をするのか、食餌や休憩はどうしているのか、子孫にどのように移動のことを伝えているのか。まだまだ謎の多いチョウたちです。日本では移動調査のためアサギマダラの羽にマーキングをしている団体があります。マークのあるアサギマダラを見つけたら教えてあげると喜ばれるかもしれませんね。また数が減っているスナビキソウ自生地の保全活動を行っている地域もあります。地球温暖化で北への移動距離が伸びていると予想されるアサギマダラ。少しでも過ごしやすい環境に整えてあげたいですね。

アクティブレジャーを出前授業に呼んでみませんか？

この記事を書いている兵庫県北部・日本海側にある竹野自然保護官事務所の久畑（くばた）です。

漂着物・生き物など自然の中で学べる授業を行っています。

↓↓興味のある方はお気軽に下記までご相談ください↓↓

環境省 神戸自然保護官事務所 TEL：078-331-1146 FAX：078-331-1148

竹野自然保護官事務所 TEL：0796-47-0236 FAX：0796-47-0249

